

シングル インパチェンス

- エクスボSM・シリーズ
- スターダスト・シリーズ
- スーパーエルフィンSM・シリーズ スタンダード/XP
- スワール・シリーズ

学名: *I. walleriana*

種子粒数の目安: グラムあたり約 1,250 から 2,150 粒

プラグ生産ステージ

ステージ 1 - 播種から幼根の発現まで (3 から 5 日)

- 培地はよく湿らせ、ほとんど飽和状態にする
- 覆土は不要。種子を沈めないよう注意する
- 発芽温度: 22 から 24°C
- 照度を 1,000 から 4,000 ルクス(100 から 400f.c.)にする
と発芽が促進される
- 培地の pH を 6.0 から 6.2、EC を 0.75 mmhos/cm (2:1) に維持し、アンモニアの値を 10ppm 以下に抑える
- インパチェンスは、発芽時の培地に塩類が多いと障害が現れるので注意する

ステージ 2 - 子葉展開まで (約 10 日)

- 幼根が展開したら水分レベルを下げる。培地をやや乾かし気味にすることで、質の高い発芽を促し良質の根が形成される
- 地温を 22 から 24 °C の範囲で維持する
- 子葉が展開してから 2 週後に、HID ライトで電照する。照度は 4,500 から 7,000(450 から 700 f.c.)で、12 から 18 時間を維持することで、プラグ生産期間を短縮することが可能である
- pH を 6.0 から 6.2、EC を 1.0 mmhos/cm (2:1)に維持し、アンモニアの値を 10ppm 以下に抑える
- 子葉が完全に展開したら、14-0-14 を 50-75ppm(N)の肥料を開始する(または、硝酸カルシウム/カリウムによる施肥でも可)
- 肥料は 2、3 回のかん水のあとに与えまる

ステージ 3 - 本葉の展開と生育まで (14 から 21 日)

- 過湿にせず、かん水とかん水の間は培地を乾燥させる。ただし過度に乾かしてしまうと根の発育や植物の生育に影響が出るので加減に注意する
- 地温を 20 から 22°Cの範囲で維持する
- pH を 6.0 から 6.2 に、EC を 1.0 mmhos/cm (2:1)に維持する
- 14-0-14 あるいは 20-0-20 の肥料を、100 から 150ppm(N)の濃度へ上げる
- 前のステージ同様、2、3 回のかん水のあとに肥料を与える
- 育苗時の徒長を防止として、夜間と昼間(朝)の温度差を利用した DIF を利用することが望ましいが、A レスト、ボンザイ、B ナイン等の矮化剤も高い生長抑制効果がある

ステージ 4 - 移植直前まで (約 7 日)

- このステージでも培地は乾燥気味に維持する
- 地温はやや低めに 17 から 18°Cの範囲で管理する
- pH を 6.0 から 6.2 に、EC を 0.75 mmhos/cm (2:1)に維持しましょう
- 14-0-14 の肥料を 100 から 150ppm(N)で与える

留意点: インパチェンスはあまり肥料を要求せず、低めあるいは中庸のレベルで生育する植物である。過度に肥料を与えると、葉が多くなりプラグの段階で栄養生長へ入ってしまうので注意しなければならない

ポット上げから出荷までのステージ

温度

- 夜間: 17 から 18°C
- 中間: 18 から 24°C

照度

適度な温度が維持されている間は、照度のレベルは高くする(ただし強すぎないように注意する)

用土

衛生的なピート主体の用土を用いる。pH は 6.2 から 6.8、用土の初期の養分は中庸(Medium)とする

肥料

- かん水と交代で 15-0-15 あるいは 20-0-20 を 150ppm(N)の濃度で肥料を与える
- 電気伝導度(EC)は、中程度の 1.0 mmhos/cm(1:2 抽出)前後を維持する

草丈の調整

- 鉢上げ後、根が鉢の内側の面に達したら、かん水をいくぶん抑えて苗の丈の生育を制御することが可能(矮化剤を用いない方法)
- また、施肥を、とくにリン酸やアンモニア態窒素を控えることで、草丈を抑えるが可能(矮化剤を用いない方法)
- インパチェンスは、昼間と夜間の平均気温の差を利用した DIF によく反応する植物で、ネガティブ DIF(昼間<夜間)で草丈を抑えることが可能(矮化剤を用いない方法)
- B ナインやボンザイが生長制御には効果がある。これらの矮化剤の使用に関しては、使用上の注意に従い、また法令、省令等の範囲内でご用いる。B ナインやボンザイでは、生長の制御とともに開花が遅れる可能性がある

光条件

インパチェンスは強い日照は苦手、日陰や木陰のような条件を好む植物である。ただし生育の段階で適正なハードニング(順化)が行われていれば、朝方であれば4時間くらいまでは直射日照下でも問題はない

予想される一般的な病気や害虫

害虫: アブラムシ、スリップスなど

病気: ピシウム、リゾクトニア、ボトリティス、TSWV/INSV などの細菌・ウイルス感染による障害

その他: ホウ素欠乏や培地の pH の上昇にともなう障害

インパチェンスの場合、最も深刻な病気は INSV インパチェンス・ネクロティック・スポット・ウイルスで、壊疽斑紋病と呼ばれるものです。これはスリップスを媒介して感染することが知られています。したがって、INSV の感染を防ぐにはスリップスの駆除が何よりも必要となります

インパチェンスの栽培期間

播種から移植 (406 穴)	4 から 5 週
移植から開花 (10cm 前後のポット、カットバックなど)	5 から 6 週

注意点:

本資料をご使用いただくにあたっては、掲載されている数値等に関しては標準的な指針としてご利用ください。栽培期間等は、気候条件や生産地、生産時季やハウスの環境条件によって、異なることがあります

EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed™

PanAmSeed.com

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road
West Chicago, Illinois USA 60185-2698
630 231-1400
Fax: 630 231-3609

PanAmerican Seed Europe BV
Lavendelweg 10
NL-1435 EW Rijssenhou, Holland
+31 (0)297-383038
Fax: +31 (0)297-383036